

日の出 【高学年3 - (3)】

- 表現活動を取り入れた取組み -

(1) 主題名 美しいもの [3 - (3)]

(2) ねらい 美しいものに感動する心や人間の力を越えたものに対する畏敬の念をもつ。

(3) 資料名 「日の出」

(4) 授業の展開例

	学習活動	主な発問と児童の心の動き	留意点
導入	1 「美しい」から連想する言葉集めをする。	「美しい」から想像するものを集めてみましょう。 ・美しい顔 ・美しい景色 ・美しい心 など	ゲームのように楽しみながら「美しいもの」に興味がもてるよう雰囲気づくりをする。
展開	2 資料を読んで、健一が感じた美しさを感じ取る。	健一のお父さんが言っていた「すごいもの」とは、どんなものだったのでしよう。 ・朝日の美しさ ・朝日がのぼる姿 いつも見ていた太陽なのに、なぜ心がジーンとしたのでしょうか。 ・いっしょに登って見た朝日だから ・生まれたばかりの太陽を見たから ・ほんとうにきれいだと思ったから	朝日がのぼるシーンを実際にスクリーンに映し出す。 体験も付け加えて発言するようにうながす。
開拓	3 自分の生活を振り返る。	今までに感じた美しいものを表現してみましょう。	美しいと感じたことを思い出し、イメージを文や絵などに表現できるよう言葉をかける。 (十分に時間をかける。)
終末	4 教師の話を聞く。	人の気持ちをすがすがしくし、すばらしいなと思わせてくれる美しいものを見ましょう。	スライド形式で美しい景色などを見て、余韻を持って終わる。

四〇四

健一、起きる。田中さん。

お父さん起つて起きたね。田が覚めた。テレビを見ながら、この間いかねむつたひいふだんのせいで起きていた。今日は特別だ。家族でやつれ出かけた

外はまだ暗く、朝がまだ起きていたのが得意なはずだ。ゲートをこじて、向時間でも起きあそぶ。やさしくだなれど、今日は家族みんなで早朝登山をする日だ。何

ないこよ。

「おじさんのがいい。ゲームも、もう夢中になるかも知れない。

お父さんかわいいんだ。ほくはくしたなもののかつたが、ねむたがつたがす」とお父さんのがまたかがえていた。

三月始めるだけみんなで行く。ひがいへして、妹とこじりあう。とぞわせながら登った。おやかな登り道を、かこかまう電灯をつけ登る。だんだんと道が急にならぬ足がとの口だが、じぶんと動き、しつかりもしないことにはやつこない。

健一、だいじょうぶか?

お父さんが顔をかかれてが、いたる元氣もなくはなれました。暗い中、これまでの道が続くのだが。体が重く、あせがひたから首から流れていへのがわからず

ふいに田の前の景色が変わった。

「よつてだ。健一。もうひとびとだ。

といつて、ひつてに着てた。大きなかばんにしきをくわへて、流れのあせをくわへ。風が、もうこひこつした気分のだが、まだあたりは暗い。

「お父さん、三月あせか」、田の匂へて、暗くなつても見えなつよ。

健一、わくわく始まる。しかり見るんだよ。

お父さん、またこんなところを見つ。

わからなつたが、お父さんが見てくる東の山をながめていた。すると、海の匂いつが、うつり明るくなつた。だんだん暗かつがなつて、それがつづいて、だんだんとやがて、うつり

「あ、太陽がのぼるんだ。」

ほくはく少しすき化して、田の様子を見ながら、なぜか心がジーンとした。

「お父さんののぼったや」、田の匂い、れだね。ぼく生きて初めて見たよ。」

光の直線が、向本も向本も立がり、あたりを照らしてく。この間とか、小鳥の声が聞こえた。毎日毎日、見てきた太陽なの」「今日は、特別美しく見えた。ほくはくして、田の匂いがたを見つめ続けた。

活用に生かすための実践報告

「日の出」

1 主題の設定

人間は、美しいもの・清らかなもの・崇高なものに対峙したとき、心を打たれ感動する。そして、普段目の当たりにしているものでも、見る視点が変わり、努力の結果として見た場合などは、普段と違ったすばらしいものとして映ることがある。

主人公健一は、早朝登山に挑む。苦労の末登った山から見た太陽は、日常なにげなく見ている太陽とは様相を異にし、心を打つ姿であった。

それを追体験することで、日常にあるすばらしいものに感動したり、美しさや崇高な様に気付いたりすることができると考える。

2 指導過程の工夫

導入では、普段あまり使わない「美しい」という言葉集めをすることで、自分たちの身の回りにある美しいものを意識して学習に入れるようにした。

また、自分を振り返るときには、自分の感じた美しさを文や絵などで表現する活動に取り組み、自分の内面を具現化できるようにした。

3 発問の工夫

日の出の様子が映像として心の中にうかぶように、ゆっくり資料を読む。

そして、「いつもみていた太陽なのになぜ、心がジーンとしたのでしょうか。」と問い合わせ、発言をあせって求めないようにしていく。

4 児童の反応

(自分の感じた美しいもの)

・雨上がり、くものすに水できがついていて

日の光にきらきら光っているところがきれいでした。

- ・夕日を見たときには、赤くそまっていく空はまるで赤いじゅうたんのようでした。ぼくはこの夕日がいつまでもいつまでもずっと見られたらいいなと思いました。
- ・旅行に行ったとき、朝すごく早くてうとうとしていたらお母さんが「うわあ、すごい。」と言ったので、ふと外を見ると、山に囲まれた海からオレンジ色の太陽が頭を出していた。朝早く起きてよかったと思いました。
- ・正月にいなかに帰った時に、空にすごい数の星が出ていて、とても感動しました。



(きれいな満月)

5 実践者からの一言

生活を振り返り、美しく感じたものは、日の出以外にも、おだやかな海の様子や桜の花、ほたるの光など多様であった。また自然の美しさのみならず人の行為や姿にもイメージを広げることができていた。

映像や写真集のように、視覚的に訴えるものが補助教材としてあると、児童も美しいものを感覚的に感じ取れる。

(古市小学校 藤本嘉江)